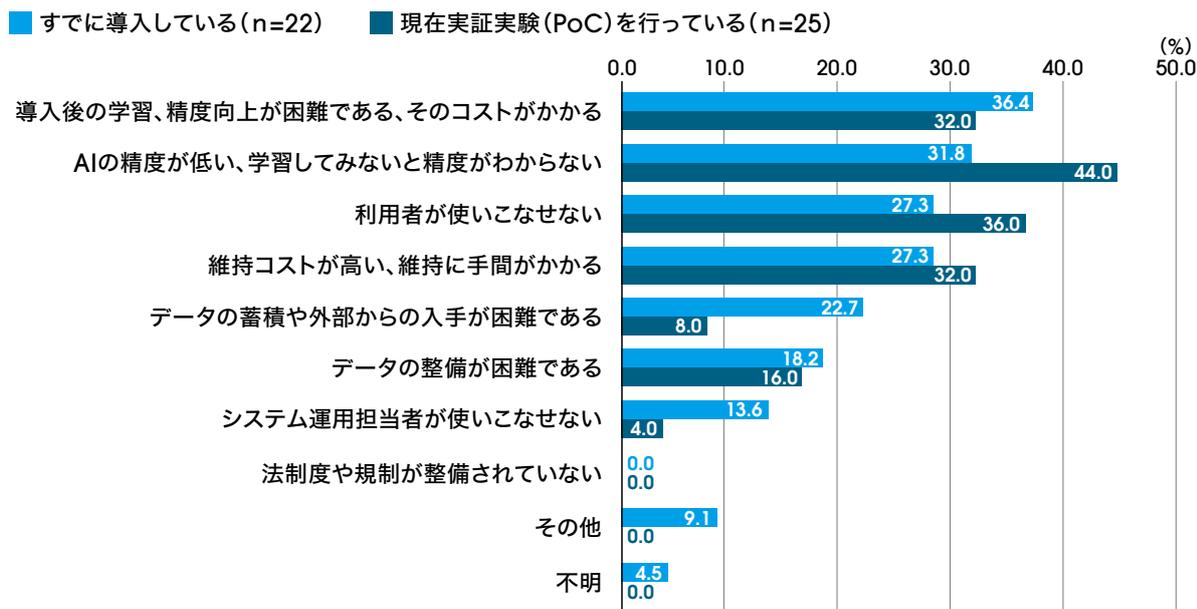
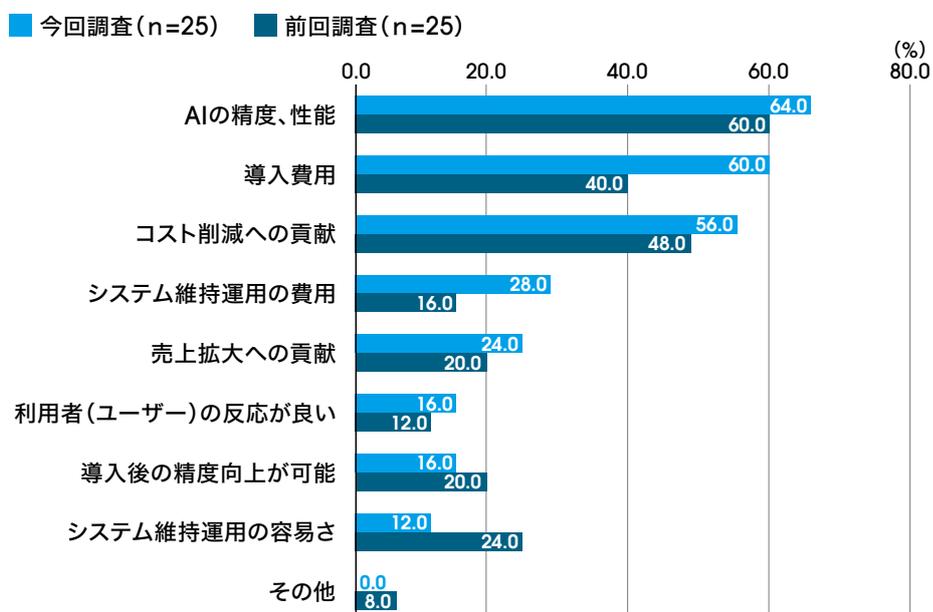


■ 図3-4-23 AIを利用する上での課題(導入段階別)(複数回答)



「現在実証実験(PoC)を行っている」と回答した企業に「PoC実施後に実導入するかを決定する際に重視するポイント」について尋ねた結果を図3-4-24に示す。前回同様、「AIの精度、性能」(64.0%)がトップになっており、そのほかの項目についても順位に多少の変更こそあるものの前回調査と同様の結果になっている。

■ 図3-4-24 PoC実施後に重視するポイント(AI白書2019、2020比較)(3つまで)

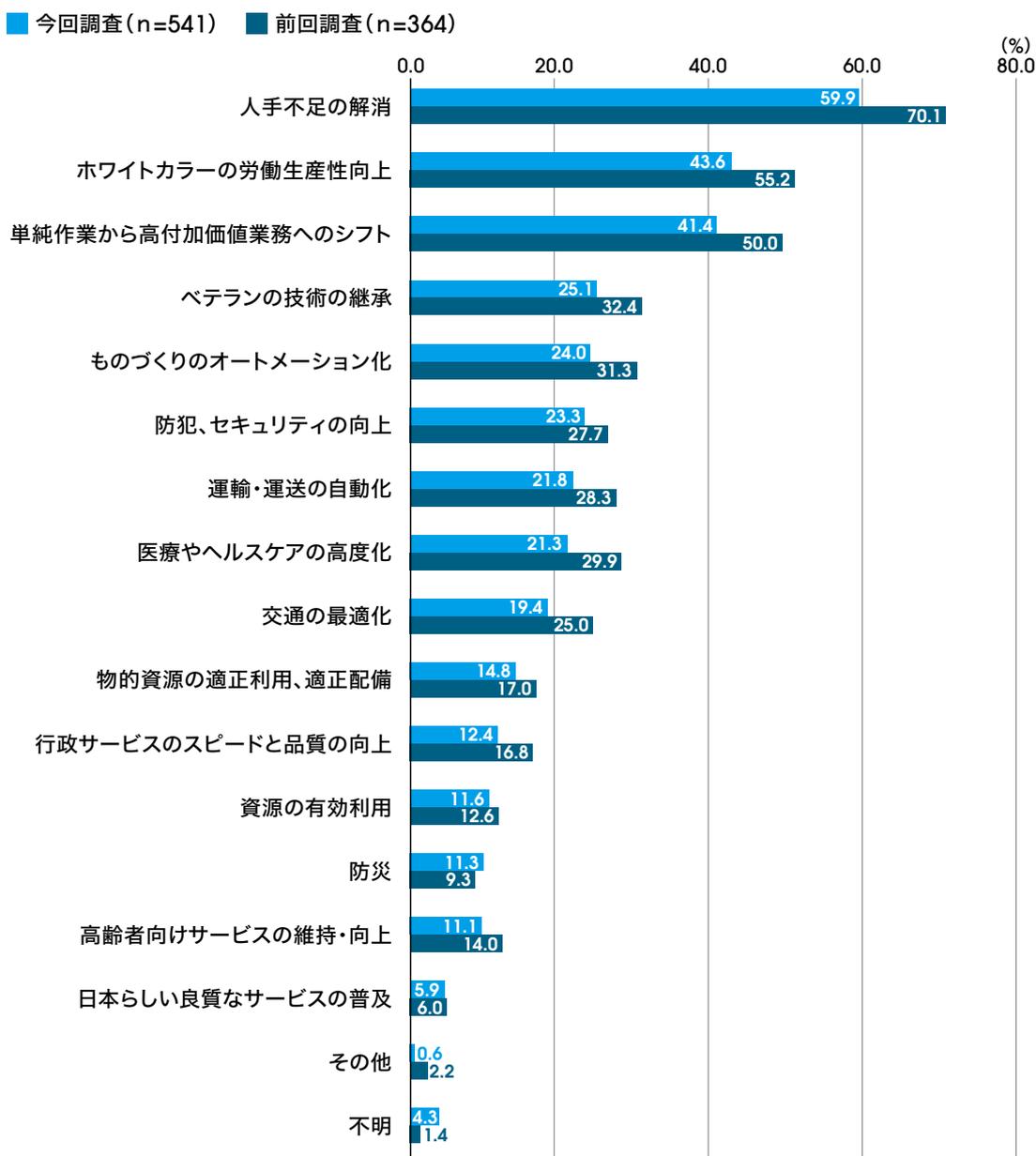


AIについて「今後も取り組む予定はない」と回答した企業に「検討をしない理由」を尋ねた結果を図3-4-25に示す。「利用できそうな業務がない」(50.0%)がトップになっており、「自社内にAIについての理解が不足している」(30.2%)、「時期尚早である」(29.1%)が続く。この順位は、前回調査と変わりはない。

A.9 AIへの期待／懸念

すべての企業に、AIが今後解決すると期待する社会的課題を尋ねた結果を図3-4-30に示す。「人手不足の解消」(59.9%)がトップになっている。「ホワイトカラーの労働生産性向上」(43.6%)、「単純作業から高付加価値業務へのシフト」(41.4%)が続いており、前回調査と同じ順位になっている。

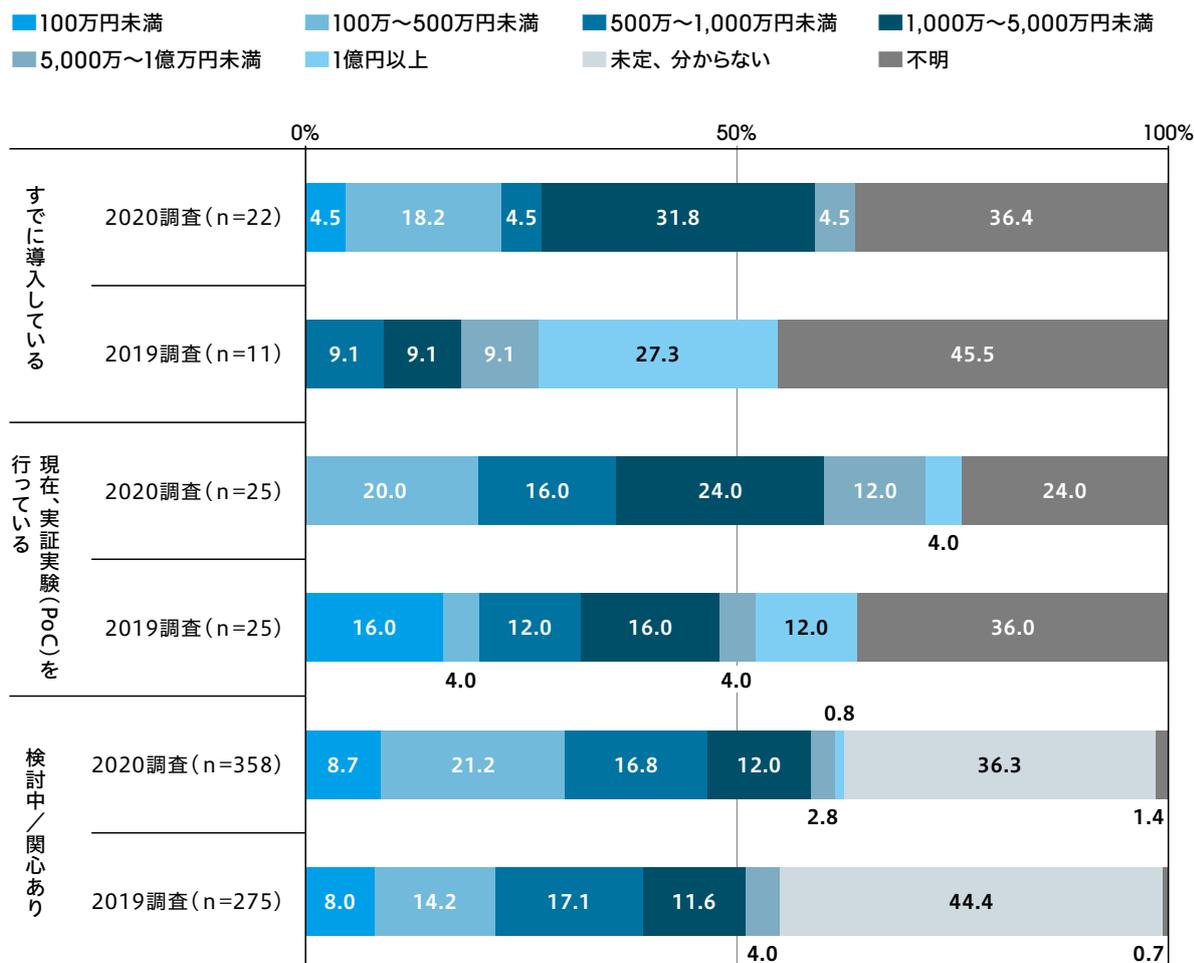
■ 図3-4-30 AIが解決すると期待する社会的課題(AI白書2019、2020比較)(複数回答)^{※15}



「AIが解決すると期待する社会的課題」を業種別にみた結果を図3-4-31に示す。業種による差異はあまり見られないが、金融業において「単純作業から高付加価値業務へのシフト」が62.5%と突出している点が目立つ。金融業では大手金融機関における人材削減の報道が目立っており、その背景にはAIを含めたIT化の影響が大きいと推察される。

※15 本設問では、企業としてではなく、アンケート回答者の意見を尋ねている。

■ 図3-5-2 AI導入予算(導入段階別、AI白書2019・2020比較)



3.5.2 AI市場の規模

AIの産業への応用が進む中、様々なAI市場に関する調査が行われている。本稿ではそれらを基にAIに関わる製品・サービス市場、AI利用による経済効果としてまとめた。調査会社によって市場定義は異なるが、いずれもAI市場は高い成長率を維持し、大きく発展すると予測している。また、AI技術やサービスの市場の拡大はあらゆる産業に影響を及ぼし、大きな経済効果を与える見通しである。

(1) AIに関わる製品・サービス市場

① AIソフトウェア製品・サービスの世界市場

米調査会社のTracticaは、AIソフトウェアの売上高は2018年に95億ドルで、2025年までに1,186億ドルに増加すると予測する(図3-5-3)。同社は、市場が本格的な成長軌道に乗るのは数年先と見ているが、2019年にはAIが現実的に活用される段階に入ったと分析している。『AI白書2019』に掲載した2017年12月発表の同社の市場調査結果では、2025年は898億ドルと予測していたが、市場の成長を受け、上方修正されている。